



ほんたん HONTAN

第 85 号

図書館ボランティアの「本探」が旬の図書館情報をお知らせします！

今月の一冊

変な家 著：雨穴（3F 和書：913.6/U）

夏が始まりましたね。年々気温が高くなっているということで、ホラー小説で涼みましょう！今月はホラー小説「変な家」を紹介します。

この本は、著者である雨穴(うけつ)本人が YouTube に投稿した動画やおモコロというウェブメディアにて投稿された記事「【不動産ミステリー】変な家」を書籍化したものとなっています。

雨穴のもとに届いたとある一軒家の間取り図。それは、ある家族が購入を検討しておるといふ、ごくありふれた一軒家の間取り図でした。間取り図の送り主によると、ありふれた間取り図にもかかわらず、見たときに何か違和感を覚えたといいます。その原因は1階に存在するドアの無い謎の空間でした。それについて不動産屋に聞いても「よくわからない」といいます。生活するうえで特に支障はないものの、なんとなく不気味さを覚えたのでこの物件を買うべきか悩んでいるとウェブライターである雨穴に相談をしたようです。雨穴は知人の設計士に相談しながら謎の空間が何なのか考察を進めるのですが、不気味な点はその謎の空間だけではありませんでした。



この作品は会話形式で話が進むため、オカルトやホラーが好きな方はもちろん、「堅い文章は読みにくい」という方にもおすすめです。YouTube やおモコロではこの作品の第一章のみが公開されているので、そこから書籍を読むというのも一つの手だと思います。

この夏はホラーを楽しみたいという方や、じっとりとした不気味さを感じてみたいという方は、この「変な家」を読んでみてください。涼しくなること間違いなしです。〈なな〉

最近読んだ本の感想

真夜中の電話：謎解き物語 著：赤川次郎（3F 和書：913.6/A）

最近読んだ本は、赤川次郎さんの「真夜中の電話」という短編ミステリー小説です。この本には4作品収録されています。一時間ちょっとあれば全部読める量なので、ミステリー初心者さんでも簡単に読める作品だと思います。4作の中で個人的には「冷たい雨に打たれて」という作品がとても面白かったです。短い文章の中でしっかり伏線が回収されていて、とても見応えがありました。

この「真夜中の電話：謎解き物語」は、ミステリーの小箱シリーズのうちの一冊です。この他にも「十代最後の日：こわい物語」、「命のダイヤル：泣ける物語」、「保健室の午後：学校の物語」、「洪水の前：自由の物語」があります。いずれも図書館で所蔵していますので、これらもぜひ読んでみてください！〈クラロワ小僧〉



黒板展示とラック展示

今回の黒板展示のテーマは「湊かなえ」です。湊かなえの書いた多くの書籍の中から、HONTAN の皆で選んだおすすめの本を展示しています。今回大きく展示している「告白」は、書籍だけでなく視聴覚資料(DVD)も図書館にあります。文字で読むもよし、映像で見るもよし。本と映像を見比べるのも面白いのではないのでしょうか。ぜひともご覧ください。なお、視聴覚資料(DVD)は図書館 AV ブースのみでの閲覧となりますのでご注意ください。〈かな〉

ラックで展示しているテーマは「物語の始まり」です。いずれもシリーズ物の第一巻を展示しています。ぜひこれらの本から、長いけれどもあつという間の物語を楽しんでください。

〈クラロワ小僧〉

